



私の3冊

村岡香織

後輩に薦める 2冊

赤居正美 (編著)

リハビリテーションにおける評価法ハンドブック ―障害や健康の測り方

医歯薬出版, 2009 年発行

リハビリテーション医にとって、評価は重要ですし、スタッフとの共通言語でもあるので、新人リハビリテーション医にはこの本をお薦めします。私は、テストバッテリーをみることで、失語症や、遂行機能などの病態像や ADL や QOL などの概念がイメージしやすくなりました。

Hislop HJ, Avers D, Brown M (著), 津山直一, 中村耕三 (訳)

新・徒手筋力検査法, 原著第 9 版

協同医書出版社, 2014

こちらも評価の教科書になってしまいましたが、いわずとした MMT の本です。機能解剖の教科書として私は活用しています。どの運動がどの筋の作用で生じ、筋力が低下するとどのような代償運動が起こるか……まで丁寧に書いてあるので、リハビリテーションの臨床にも、筋電図検査やボトックス治療などのお供にもお薦めです。

自分の 1冊

ショプラー E, ランシング M, ウォーター L (著), 佐々木正美, 青山 均 (訳)

自閉症児の発達単位 267—個別指導のアイデアと方法

岩崎学術出版社, 1988

一般病院でも、発達障害児を診察する、生活やリハビリテーションのアドバイスをする、という場面があり、この本をよく参照しました。精神発達にあわせて「言語課題ではこういう課題」、「粗大運動でこういう課題」と診察の場でもできる具体的な課題や促し方が載っているので、発達障害児以外にも「次にこういう練習をしてみましょう」と提示するのに参考になります。成人のリハビリテーションメニューを考えるときの参考にもなりそうなのでよく眺めています。

■ むらおか・かおり 医師 18 年目 慶應義塾大学リハビリテーション医学教室、慶應義塾大学病院リハビリテーション科
大学病院で主に急性期患者（脳卒中・整形外科術後・心疾患・呼吸器疾患・がんなど）のリハビリテーションを行っています。これまで脳卒中リハビリテーション中心の回復期リハビリテーション病棟、市立病院などでのさまざまな疾患における急性期中心のリハビリテーション、外来や療育センターでのリハビリテーションとさまざまなリハビリテーションにかかわってきて、その度にさまざまな本を買い足しましたが、上記 3 冊はとくにお薦めです。